

子規記念博物館における購入資料の概要 (正岡子規関連資料ほか 計 11 件 1,247 点)

松山市では、令和 8 年 3 月に正岡子規や門人、親族などゆかりの人々に関する資料計 11 件 1,247 点を購入し、子規記念博物館に収蔵しました。今後、これらの資料についてさらに調査・研究を進め、常設展や特別企画展・特別展で一般公開する予定です。

■ 資料の内容と意義

資料(1)～(7)は、子規と俳句の門人たちが子規の友人の画家・中村不折や下村為山とともに俳句と俳画の合作を試みた画賛や、子規の絵画に対する批評文の原稿などで、子規が絵画や美術の世界とどのように向き合ったのかを示す貴重な資料です。また資料(8)～(11)は、子規ゆかりの正岡家・大原家・加藤家に関する資料群であり、子規の母や妹に関する資料、外交官として活躍した叔父の加藤拓川に関する資料など、子規の人物像を故郷松山の血縁関係から明らかにする上で重要なものです。

(1) 子規ほか句画「画賛」明治 26 年 12 月 3 日 仮綴 1 点

明治 26 年 12 月 3 日夜、上根岸子規庵の子規の部屋（瀨祭書屋）で、子規とその周辺の俳人たちが俳句を記し俳画を添えた作品です。俳句の作者は子規・五百木飄亭・伊藤松宇・石川鶯洲・藤野古白・勝田主計・西原五洲の 7 名です。

(2) 子規・中村不折ほか句画「革命」 仮綴 1 点

子規とその周辺の俳人たちが俳句を記し、画家の中村不折と下村為山（推定）が戯画を添えた作品です。俳句の作者は子規・下村為山・大野洒竹・内藤鳴雪らです。

(3) 子規・中村不折ほか句画 牛図ほか 仮綴 1 点

中村不折の戯画を綴った前半部分と、子規・下村為山・内藤鳴雪が俳句を記し、為山が俳画を添えた後半部分からなる作品です。

(4) 子規・得能秋虎句画「明治二十五年秋根岸庵二於テ題画」 仮綴 1 点

明治 25 年秋、上根岸の子規庵において子規と得能秋虎が俳句を記し俳画を添えた作品です。秋虎は富山県出身の哲学者で、帝国大学在学中に子規から俳句を学びました。

(5) 画「浅井先生が時々来る」ほか 仮綴 1 点

戯画を描いた半紙を綴った作品です。画のタイトルとして「浅井先生が時々来る」「すゝきと秋海棠」「裏の窓から三嶋社をのぞむ」「屋根の上から汽車をみる」「妻君の行水」などが確認できます。

(6) 子規ほか句画「古寺や百鬼夜行の霜のあと」 仮綴 1 点

子規とその周辺俳人たちが俳句を記し、俳画を添えた作品です。俳句の作者は子規と新海非風が考えられます。俳画の作者は不明ですが、子規か非風と考えられます。

(7) 子規筆「秋のはじめ賛評」明治28年秋 和綴 1点

子規が中村不折の絵画 32 点を取めた一冊の画帖の批評を記した資料です。執筆年は明記されていませんが、批評に添えられた子規の俳句から、明治 28 年初秋（須磨保養院滞在中か）と推定されます。

(8) 資料グループ①「正岡子規関係資料」 122点

子規の直筆資料、祖父大原観山や母八重、妹の律、叔父の加藤拓川をはじめとする親族の資料、門人の高浜虚子や内藤鳴雪らの資料など、122 点です。叔父加藤拓川から贈られた子規愛用の一輪挿し、律と小島ひさの写真ガラス板、律愛用のバスケットなど、子規と親族の繋がりを紹介する上で重要な展示品となり得る資料が多数含まれています。

(9) 資料グループ②「加藤拓川関係資料」 432点

子規の叔父で外交官や松山市長として活躍した加藤拓川の遺品や遺墨を中心とする資料群、432 点です。加藤拓川の外務官任状やメダル・記念章、自筆原稿、海外旅行用トランク、ヨーロッパの演劇パンフレット、遺愛の花瓶、外交官時代のポートレートなど、世界を舞台に活躍した拓川の人生を知る上で基礎的かつ重要な資料です。

(10) 資料グループ③「加藤拓川あて書簡」 376点

外交官として活躍し、明治・大正期の様々な偉人と交流した加藤拓川に宛てられた書簡類、376 点です。秋山好古や正岡八重など松山の友人・親族のほか、政治家の犬養毅や西園寺公望、実業家の渋沢栄一、親友でジャーナリストの陸羯南など、時代に名を残した人物との拓川の幅広い人脈が窺える資料群です。

(11) 資料グループ④「正岡家江戸時代資料」 310点

江戸時代の正岡家の祖先に関する古文書を中心とする資料群、310 点です。茶人として知られた正岡一甫宛ての裏千家からの書簡、子規の父・正岡隼太に関する資料、正岡家の居宅に関する資料のほか、武具・武術、水練術、軍学など、正岡家代々の当主たちを研究する上で興味深い資料が含まれています。

■ 購入した日

令和 8 年 3 月 2 日（月）（資料番号（8）～（11））、及び 3 月 6 日（金）（資料番号（1）～（7））

■ 購入額

42,823,800 円 ※全 11 件 1,247 点で

■ 購入先

東京都在住の個人、及び奈良県在住の個人

■ 今後の一般公開について

今回の資料はいずれも子規と門人たちの文学活動や親族など子規ゆかりの人々に関連するもので、従来の文献に掲載されていない資料が含まれています。

このうち（1）～（7）の 7 点を、4 月 1 日（水）から常設展示室特集コーナー『子規博の新収蔵資料』前期展「子規たちの俳画」で一般公開します。また（8）～（11）の計 1,240 点の中から調査研究した上で 10 点程度を選定し、同後期展「子規と家族・親族—八重・律・大原観山・加藤拓川—」で一般公開します。

その他の資料についても今後さらに調査研究を進めた上で、特別企画展・特別展や常設展示室で一般公開を行うなど、永続的な活用を図る予定です。